



給食たより

令和 7 年 度

さいたま市立針ヶ谷小学校

お子さんと一緒にご覧ください

本格的な冬を迎え、寒さが身にしみる季節となりました。今年も残すところあとわずかです。

12月はクリスマスや冬休みなど、子どもたちにとって楽しみの多い月です。しかし、気温の変化が大きく乾燥もする時季のため、風邪やインフルエンザが流行しやすい時季でもあります。給食では、旬の食材をたっぷり使った、栄養満点で体の芯から温まるメニューを提供し、子どもたちの体調管理をサポートしてまいります。楽しい冬休みまであと少し。おいしい給食を食べて、残り少ない2学期を元気に締めくくりましょう。

12月の献立を紹介します

12月8日(月)「食べることでできる幸せを感じる献立」です。

【だいこんめし・牛乳・ふかしいも・二色すいとん・みかん】

12月8日は、84年前に太平洋戦争が始まった日です。そこで、「毎日当たり前のように食べられていることは、決して当たり前ではない」ということや「平和な世の中だからこそ、安心しておいしいものを食べることができる」ということを改めて考えてほしくてこの献立にしました。



各クラスから感想もたくさん集まりました！ほんの一部をご紹介します。

- ・食べることは当たり前じゃない。おいしかったけど毎日はいやかな。(あおぞら)
- ・給食とおいしいご飯がなくなると元気がなくなる。毎日同じ給食は飽きるしたぶんいやだ。(1-3)
- ・今日のめしあがレター(給食時に栄養教諭から配布している資料)を読んでもらったとき、私は、戦争のない世界があったらいいなと思いました。(2-1)
- ・戦争中はおなかいっぱい食べることができないのを初めて知った。今、たくさん食べられていることは幸せなので、給食とかも残さず食べたい。今、私たちが残しているものは昔の人からしたらとても食べたかったものだと分かったから、昔の人が見て笑顔になるように食缶を空にしたい。ご飯が食べられないとこんなに悲しい気持ちになるなんて知らなかった。(2-2)
- ・同じものばかりだと栄養バランスが気になる。(4-2)
- ・戦争中はきっと体力が必要なのに、食べられなかった当時の人はかわいそう(5-3)
- ・戦争中はお米が全然食べられないことを初めて知りました。(6-1)

10月の給食の様子をご紹介します♪

10月は「読書月間」と連携し、絵本や物語に登場する料理を再現する「お話し給食」を実施しました。今年は「ひと」のお肉屋さんの手作りコロック、「はれときどきぶた」の赤鉛筆の天ぷら、「給食室のいちにち」のカレーライスなどが給食に登場です！夏休みの宿題の「本の紹介」で紹介している児童もいました。その紹介を聞いてから食べることで、想像力が広がり、子どもたちの食への興味がさらに高まりました。



10月3日(金) 赤鉛筆の天ぷら

11月の給食の様子をご紹介します♪

11月は地場産物活用ウィークとして取り組みました。この期間、給食では、さいたま市産の小松菜や埼玉県産の里芋やねぎ、彩の国黒豚などの食材を積極的に献立に取り入れました。子どもたちは、地元の食材を味わうことで、「誰がどのように作っているのか」に関心が深まり、食べ物への感謝の気持ちを育む一助となりました。また、収穫から食べるまでの距離が短い地場産物を通して、旬の味覚の美味しさを再確認する機会にもなりました。埼玉県の郷土料理やワールドフランスとコラボした献立も提供したことで、自分たちの住む郷土の料理や外国の食文化にも関心を高めていました。



11月7日(金) 彩の国黒豚のロベールソースかけ